

香川県坂出市における津波に関する住民の意識調査

小林晴佳

I. はじめに

近年、南海トラフ地震の発生が危惧されており、今後30年以内にM8～M9クラスの大規模地震が発生する確率は70%程度と予想されている(地震調査研究推進本部 事務局, 2013)。内閣府では、南海トラフ地震発生時のシミュレーション動画を作成・公開するなどして、対策を進めている。さらに内閣府は、南海トラフ地震に対し、震度6弱以上の地域、津波高3m以上で海岸堤防が低い地域、防災体制の確確保・過去の被災履歴への配慮の3つを基準とし、「南海トラフ地震防災対策推進地域」を指定している。香川県は「南海トラフ地震防災対策推進地域」に指定されており、香川県内では最大震度7の予測が出ている地域もある(香川県, 2015)。また最大クラスの南海トラフ地震発生した場合、香川県では最大3.8mの津波浸水予測が出されている(香川県, 2015)。しかし、近年香川県では人的被害、物的被害が発生する災害は起きていない(香川県, 2016)。こ

のような状況に対し、香川県の住民は津波の対し、どのような意識を持っているのか。本研究では、香川県坂出市の住民に津波に関する意識調査を行い、住民の防災意識について明らかにする。

II. 対象地域について

本研究では、香川県坂出市久米町、林田町(東梶地区、港地区、大洲地区)を調査地域とした。坂出市は、香川県の瀬戸内海側に位置する。平成26年4月に坂出市が発行した津波ハザードマップでは、久米町では最大2m、林田町では最大3mの津波浸水深が予測されている。またこの地域の過去の災害として、1946年の昭和南海地震がある。坂出市の中でも、本研究の調査範囲では、久米町と林田町大洲地区において昭和南海地震発生時、浸水被害があったとされている。

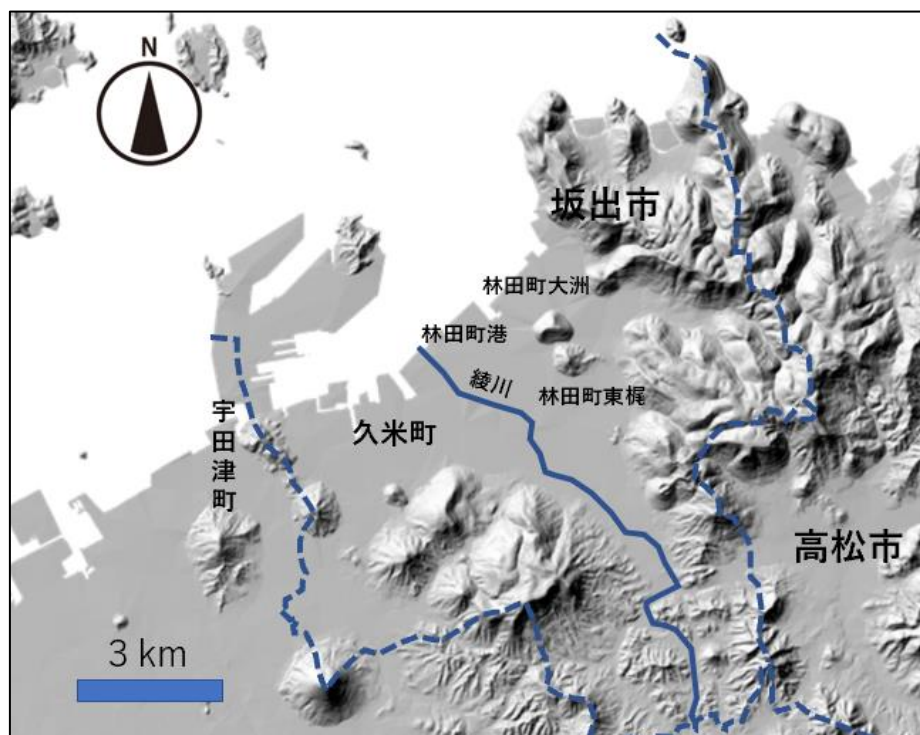


図1 対象地域図

Ⅲ. 調査方法

本研究では、坂出市久米町(40名)と坂出市林田町(50名)の住民にアンケート調査及びヒアリング調査を行った。昭和南海地震の浸水地域(久米町, 林田町大洲地区)と非浸水地域(林

田町東梶地区, 港地区)のアンケート結果を比較し, 分析する。アンケート項目は, 以下の通りである。

表1 アンケート項目

質問1	災害に関心がありますか。
質問2	どのような災害に関心がありますか。
質問3	坂出市津波ハザードマップを見たことがありますか。
質問4	坂出市津波ハザードマップを持っていますか。
質問5	津波発生時, どこに避難すればよいか知っていますか。
質問6	南海トラフ地震発生時, 坂出市では津波による浸水被害が大きいと思いますか。

Ⅳ. アンケート結果

(1) 災害への関心について

「災害に関心があるか」について, 回答結果を図2に示した。久米町では, 「はい」と回答した割合は94%, 林田町東梶では86%, 林田町大洲, 林田町港では100%であった。いずれの地域でも害に関心がある人の割合が80%以上であり, 高い割合になっている。

「どのような災害に関心があるか」について, 回答結果を図3に示した。この質問では, 地震, 津波, 高潮, 土砂災害, 火山, その他の6項目から, 該当する項目を選んでもらった。なお, 複数選択可能とした。久米町, 林田町大洲, 林田町港では地震が最も多く, 久米町では40%, 林田町大洲では49%, 林田町港では43%であった。林田町東梶では津波が最も多く, 56%であった。

(2) ハザードマップについて

「坂出市津波ハザードマップを見たことがあるか」について, 回答結果を図4に示した。久米町では, 「はい」と回答した割合は94%, 林田町東梶では79%, 林田町大洲では76%, 林田町港では55%だった。

「坂出市津波ハザードマップを持っている

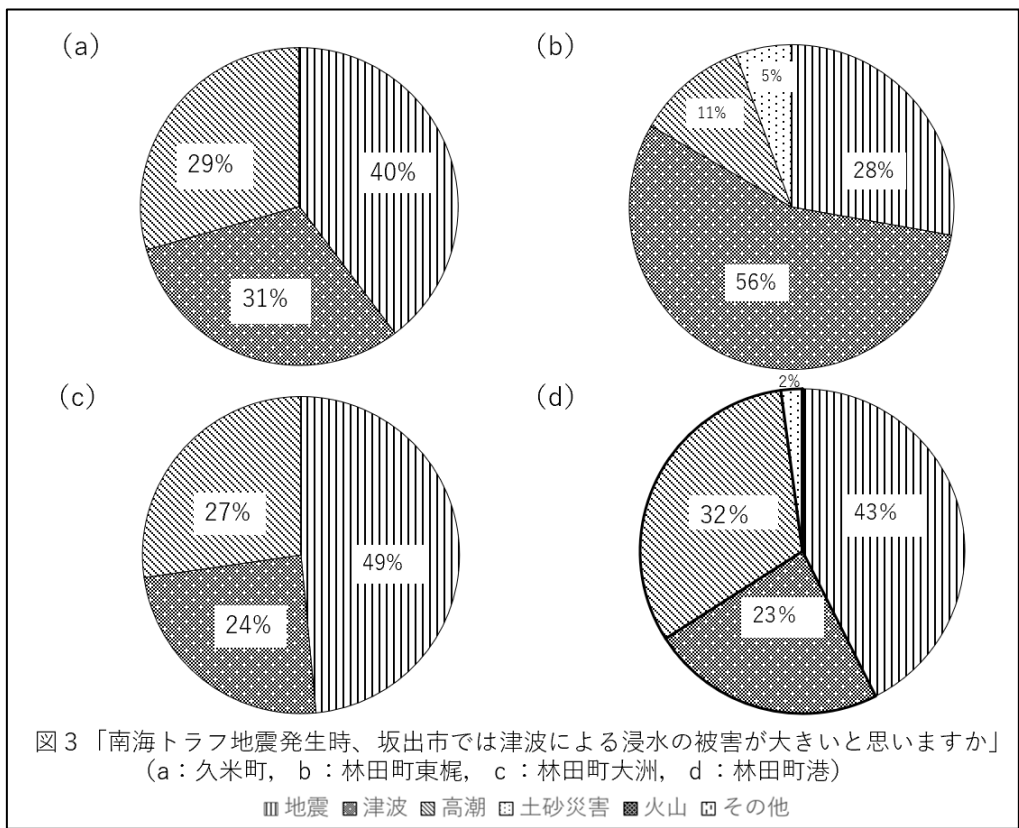
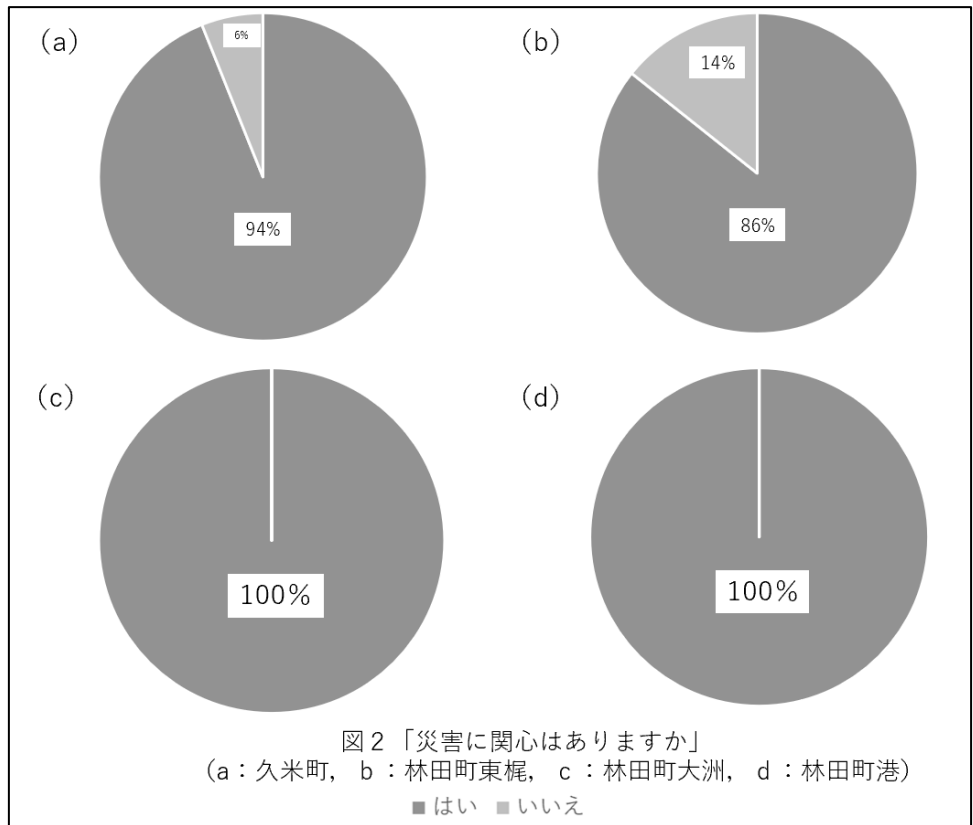
か」について, 回答結果を図5に示した。久米町では, 「はい」と回答した割合は79%, 林田町東梶では36%, 林田町大洲では38%, 林田町港では37%だった。いずれの地域でも, ハザードマップを見たことがある人の割合に比べ, ハザードマップを持っている人の割合は小さくなっている。

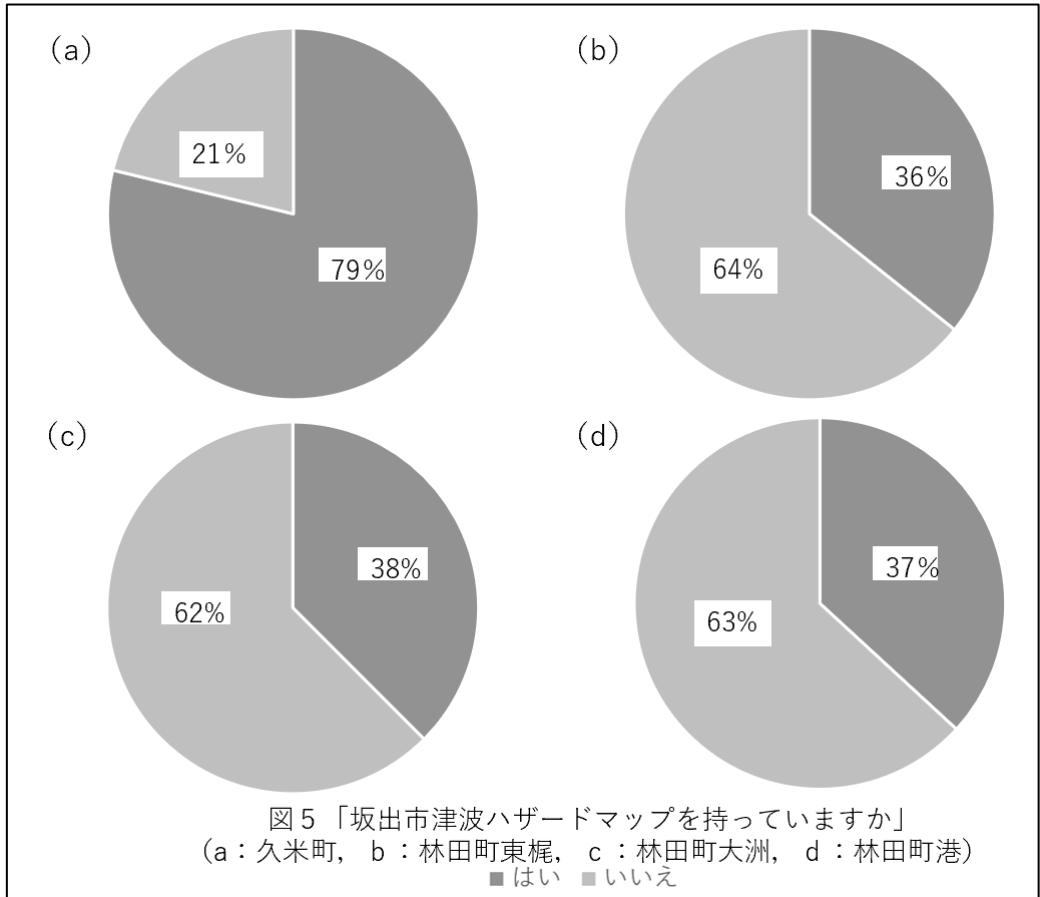
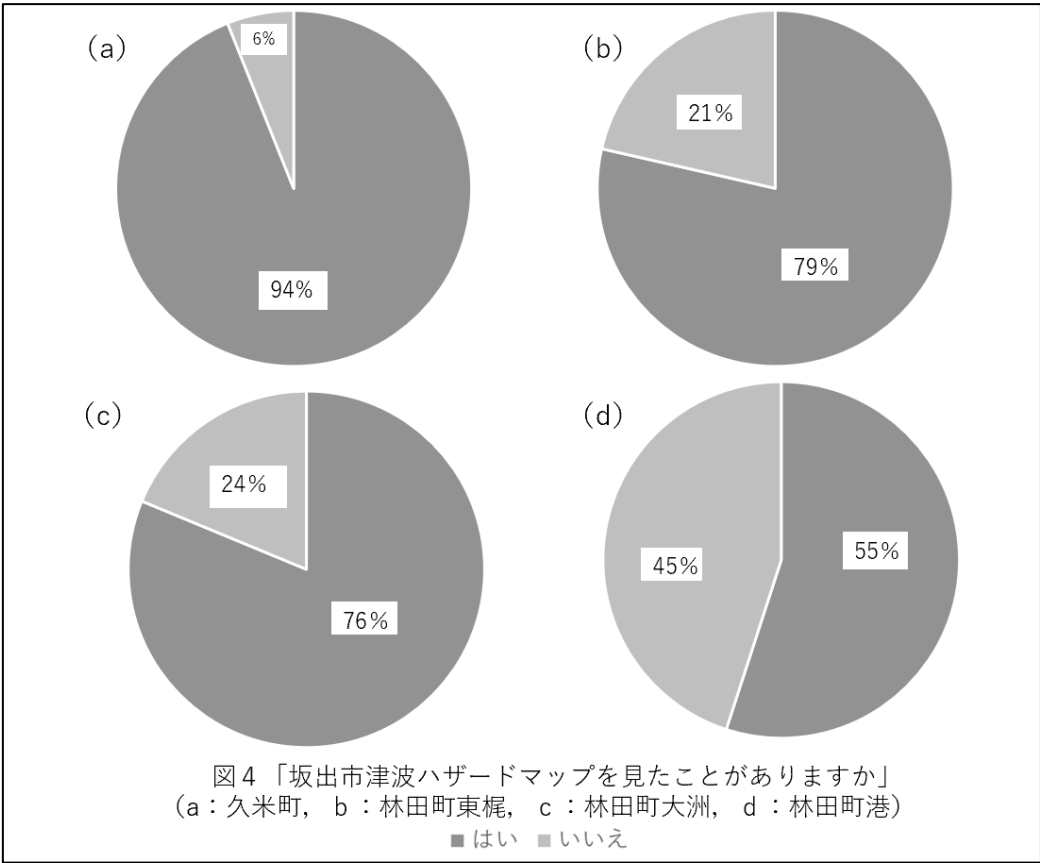
(3) 津波発生時の対応について

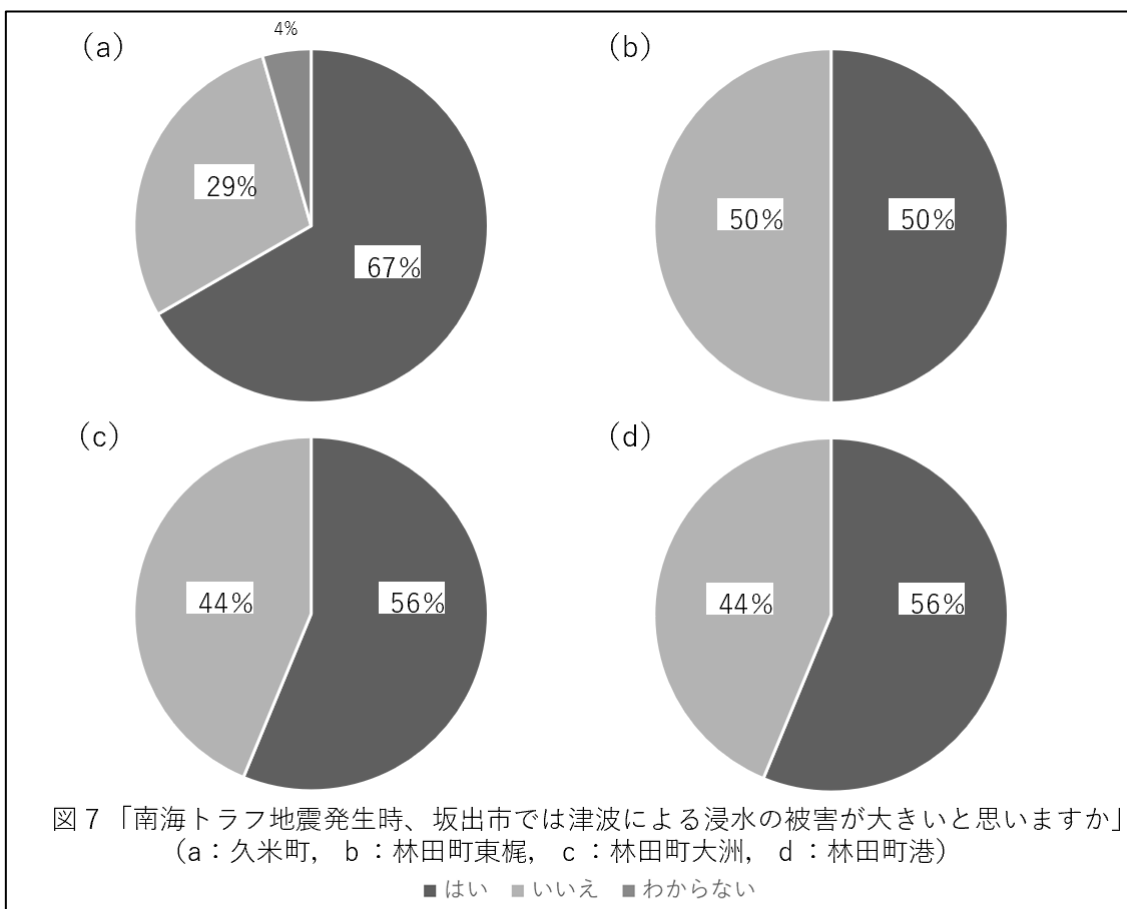
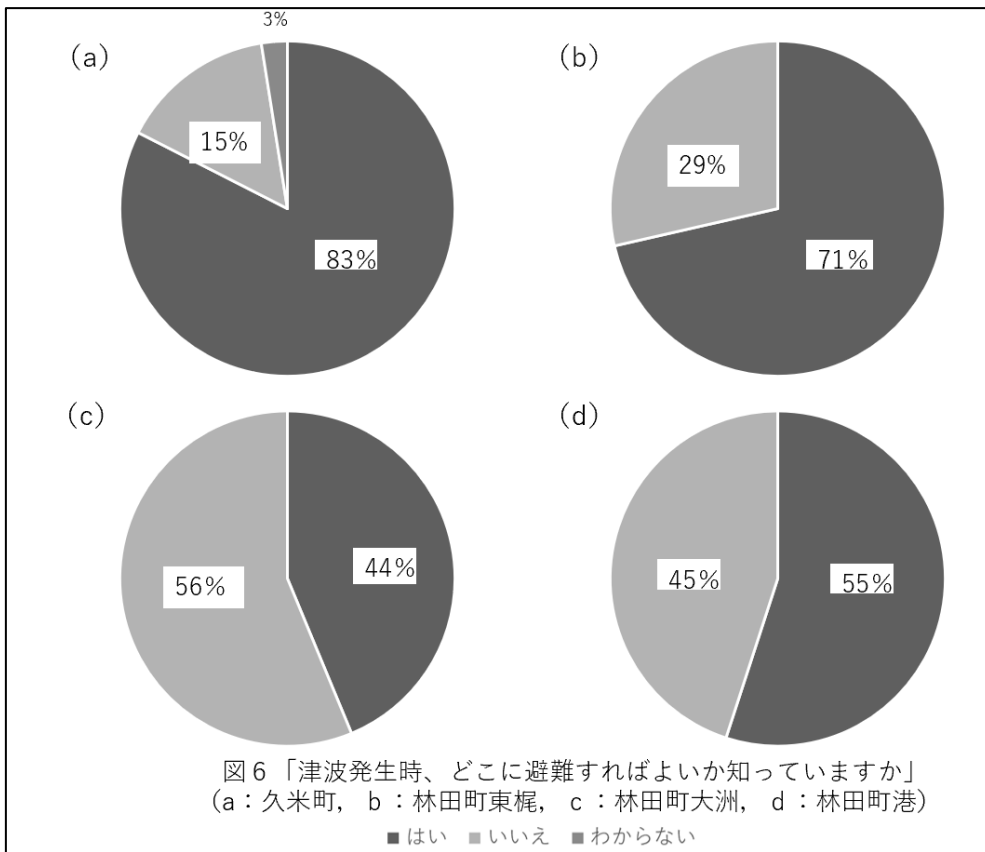
「津波発生時, どこに避難すればよいか知っているか」について, 回答結果を図6に示した。久米町では, 「はい」と回答した割合は83%, 林田町東梶では71%, 林田町大洲では44%, 林田町港では55%だった。林田町大洲以外の地域では, 「はい」と回答した割合は半数を超えた。

(4) 津波による浸水被害について

「南海トラフ地震発生時, 坂出市では津波による浸水被害が大きいと思うか」について, 回答結果を図7に示した。久米町では, 「はい」と回答した割合は67%, 林田町東梶では50%, 林田町大洲では56%, 林田町港では56%であった。







V. 考察

アンケート結果から、住民の防災意識について考察する。

(1) 災害への関心について

「災害への関心があるか」という質問の結果は、どの地域においても「はい」と回答した人が80%を超えているため、南海地震の浸水の有無に関わらず、災害への関心は高いといえる。

「どのような災害に関心があるか」という質問では、久米町、林田町大洲、林田町港では「地震」が最も多かった。「地震」という回答を合計すると、全体の40%である。全体で見ると、

「地震」という回答が最も多い。地震による揺れや家屋の倒壊などに対する恐怖、警戒から「地震」が最も多かったと考えられる。また林田町東梶では、「津波」という回答が最も多く、56%となっている。林田町東梶で「津波」という回答が多かった理由として、ヒアリングで「綾川（香川県中部を流れる綾川水系の本流）の存在が脅威だ」と答えた人がいたことを踏まえると、東梶は海からは約2.5km離れているが、津波が東梶地区の近くを流れている綾川に沿って遡流することを危惧していることが考えられる。関心がある災害の種類について、南海地震の浸水の有無による違いは見られなかった。

(2) ハザードマップについて

久米町では、ハザードマップを見たことがある人の割合だけでなく、ハザードマップを持っている人の割合も高かった。久米町では、自主防災組織による防災活動が盛んに行われているが、ハザードマップに関する質問の「はい」という回答率の高さに影響していると考えられる。その他の地域では、「ハザードマップを見たことがあるか」という質問の「はい」の回答率に対し、「ハザードマップを持っているか」という質問の「はい」という回答率は大きく下がり、30%台となった。このことから、津波に

対する警戒が高くないといえる。特に林田町東梶では、津波に対する関心が最も高かったが、津波ハザードマップを持っている人の割合は36%と低かった。この結果から、津波に対する関心が高い割に、ハザードマップを活用した対策は行われていないことが分かった。

(3) 津波に対する意識

「津波発生時、どこに避難すればよいか知っているか」と「南海トラフ地震発生時、坂出市では津波による浸水被害が大きいと思うか」で「はい」と回答した割合が最も高いのは、久米町であったことから、4つの地区の中で津波に対する意識が最も高いのは久米町であると考えられる。林田町大洲では、津波発生時の避難場所を知っている人の割合が44%と少ないことから、津波に対する意識が低いと考えられる。久米町と林田町大洲は、ともに南海地震の浸水地域であるが、津波に対する意識に大きな差がある。林田町東梶では津波に対する関心が高いという結果であったため、津波発生時の避難場所を知っている人の割合が71%と高くなったと考えられる。

VI. おわりに

本研究では、坂出市の住民に対して津波に関するアンケート調査を行った。全体的に、津波に対する危機意識は低いことが分かった。坂出市は、平成26年に津波ハザードマップを発行しているが、ハザードマップの認知度（全体で76%）に対してハザードマップの所持率は低く、ハザードマップを基に避難行動を考えている人は少ない。今後、南海トラフ地震は必ず発生する。災害に備え、自治体と住民が一体となり、防災意識を高めていくことが重要だ。

謝辞

今回の調査あたり、ご協力いただいた坂出市役所の方々、聞き取り調査にご協力いただいた皆様に心より感謝いたします。ありがとうございました。

参考文献

- ・地震調査研究推進本部 事務局（2013）南海トラフの地震活動の長期評価（第二版）概要資料

- ・香川県（2015）香川県地震・津波対策 海岸堤防等整備計画

- ・香川県（2016）過去の主な地震災害一覧表

- ・坂出市津波ハザードマップ

<https://www.city.sakaide.lg.jp/uploaded/attachment/6640.pdf>

- ・かがわ防災 web ポータル

<http://www.bousai-kagawa.jp/index.html>

- ・内閣府 防災情報のページ

<http://www.bousai.go.jp/index.html>

- ・気象庁

<http://www.data.jma.go.jp/svd/egev/data/n-teq/index.html>